

特集

もうひとつの 外国語

国際総合科学部
国際教養学系 社会関係論コース 4年
横浜市立横浜商業高校 国際学科出身

太田 杏奈さん



～言語・文化を超えて生きる力を身につける～

1年生からドイツ語を学び、3年生で1年間
ウィーン大学に留学した太田杏奈さん。母語と英語に加え、
もうひとつの言語を学ぶ意義について聞きました。

ードイツ語を学ぼうと思ったきっかけは？

入学当初から英語以外の言語に強い関心がありました。高校は国際科で英語の勉強はみっちりやってきたので、大学では、他の言語を学びたいと思っていました。ドイツ語に決めた理由は、YCUに留学プログラムがあったから。せつかく言語をやるなら、留学という目標があったほうが良いとも思いました。

ー習得する秘訣は？

ドイツ語の上達を目指すだけでなく、人とのつながりを増やすという目標を持っていました。相手を知りたいからこの言語で話すというだけで、言語はあくまでもひとつのツールなんです。国籍などで考えるのではなく、相手を知りたいという好奇心や、理解したいという情熱が、結果的に言語の上達にもつながっていました。

ー人とコミュニケーションを取るとき、
どんなことを大切にしていましたか？

留学してすぐに、学生の国際会議にいくつか参加しました。なかでもノルウェーの国際フェスティバルは印象的でした。フェスティバルといっても、参加者同士のディスカッションが中心で、テーマは「差別」。会議に集まる学生は、国際色豊かですし、考えかたも多様。だからこそ、周りに流されないために、自分がどのようなスタンスなのかブレないようにして、人の意見を聞くという姿勢を意識しました。相手の意見が

どう位置付けられるのかを考えることで、自分以外の視点に改めて気づくことになります。

ーマーケットに行くのが楽しかったとか

はい、マーケットに行けば私の顔を覚えてくれているおじちゃん、おばちゃんに出会えます。「おじちゃん、玉葱1キロ!」「野菜スープ作りたいんだよね～」など、何気ない世間話が楽しくて。その地域の言語で人とつながり、買い物ができるとき、そのコミュニティの一員として暮らしている実感が湧いてくるんですよ。誰かに気にかけてもらったり、おまけしてもらったり、人の温かさに触れることは日常生活を豊かにする重要な要素だと思います。

ー太田さんが考えるグローバル
人材とはどのような人だと
思いますか？

自分の頭で次の行動を判断できる人。自分なりの軸を持ちつつ、相手の話に耳を傾ける余裕があり、成長し続けられる人だと思います。ウィーン大学の学生は半分くらいが違う国籍なので、文化、習慣が違うのは、当たり前。だからこそ、「あなたは何がしたいの?」が問われます。暗黙の了解やルールもありません。日本人はこうだからという感覚ではなく、一個人として何をしたらいいのかを考えて行動すること。そのうえで、相手を尊重しつつ自分を出すということが大切です。

ーYCUを目指す高校生へメッセージを

興味のあることにはどんどん飛びこんでください。まずはやってみることが大切。大学生の間は自分のための時間で、自分に投資している時間です。YCUは挑戦をあと押ししてくれる環境なので、ぜひ自分からその機会をつかみに行ってください。

プロフィール
大学2年の2月～大学3年の2月まで、1年間ウィーン大学へ交換留学。
大学1年生で、「第3回全国学生英語スピーチコンテスト」で優勝。将来の夢は、人が自信を持って突き進んでいけるようなサポートをすること。

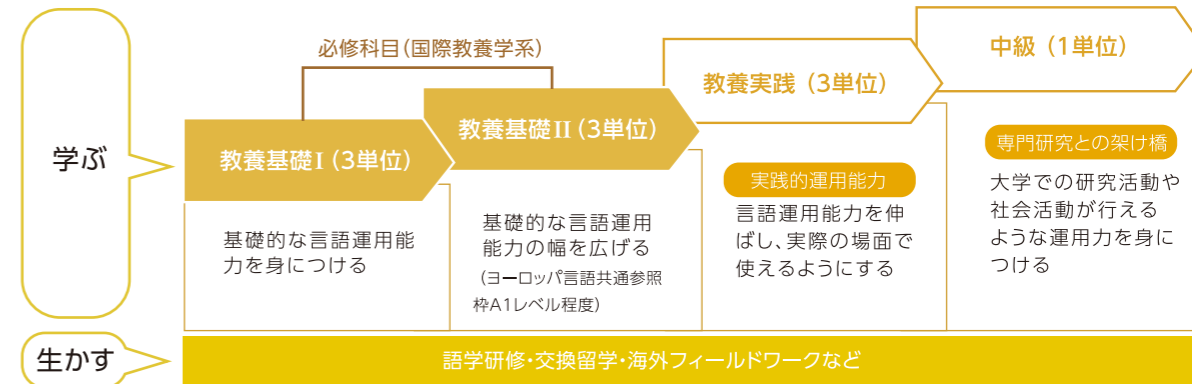


ウィーン大学から留学を希望する学生向けの説明会で、留学生同期とYCUをPR。

YCU初習外国語の特色

YCUでは、大学入学後、初めて学習する英語以外の外国語(初習外国語)の習得を強化しています。言語学習を通じて背景にある文化・歴史・思考に触れることで、複眼的な思考を身につけ、他者と協働して課題解決に取り組む人材を育成します。2017年度入学生より、国際教養学系では、中国語、韓国・朝鮮語、ドイツ語、フランス語、スペイン語の「教養基礎I」「教養基礎II」が必修化されます。

<p>1 実践 ネイティブから学ぶ</p> <p>すべての科目で、ネイティブスピーカーの授業があります。実践の場を通して実用的なコミュニケーション力を身につけます。</p>	<p>2 週3 週3回の授業で反復練習</p> <p>「教養基礎I」「教養基礎II」はそれぞれ3単位、週3回。頻度高く授業を受けることで、着実にコミュニケーション力を伸ばすことができます。</p>	<p>3 フレック いつからでも履修可能</p> <p>1年生前期から4年生後期まで、いつでも履修を始めることが可能(ただし、プラクティカル・イングリッシュをクリアした学生が対象)。「留学や海外ボランティアに参加する前に履修したい」等のニーズにこたえます。</p>
---	---	---



世界はもっと広く、多様であることを知ってほしい

国際総合科学部 国際教養学系 准教授 平松 尚子

英語学習は世界のスタンダード。それにプラスアルファの言語を学ぶことで、様々な言語や文化を背景に持つ人々が大多数であるという世界の現実を知り、自分自身が思っているよりも世界はもっともっと広いことに気づくことができます。みなさんには言語の習得を通して、複眼的な思考と、協働して課題解決に取り組む力を身につけてほしいと考えています。国際教養学系では2017年度入学生から初習外国語が必修になりますが、YCUの他学部・他学系の学生もこれまでと変わらず履修できるので、ぜひ新しいことばの学びにチャレンジしてほしいと思います。

